

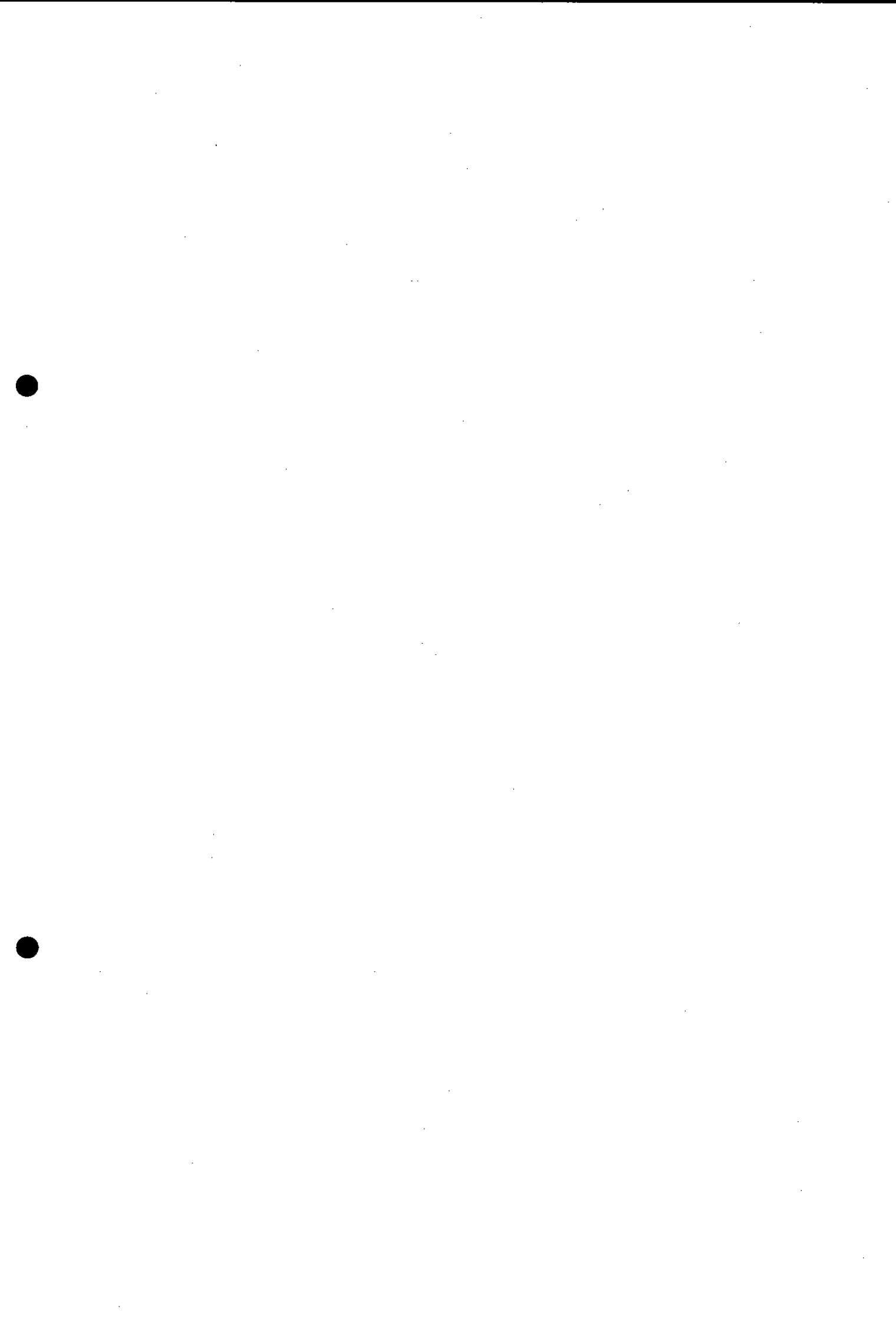
島々谷の砂防に関する質問主意書

右の質問主意書を国会法第七十四条によつて提出する。

平成十四年十一月十四日

中村敦夫

参議院議長 倉田寛之殿



## 島々谷の砂防に関する質問主意書

北アルプス南部の島々谷は、上高地のかつての表玄関である。明治時代、日本アルプスを世界に紹介したウォルター・ウエストンは、この島々谷を幾度となく歩き、溪谷の美しさを絶賛していた。

しかし、現在の島々谷には、川を分断する砂防ダムがひしめき合い、ウォルター・ウエストンの愛した溪谷美は失われている。そして、新しい砂防ダムの建設で発生した土砂が、既存の砂防ダムを埋め、更に新しい砂防ダムを造る根拠の一つとされているのである。政府は、このような賽さいの河原で石を積むに等しい行為を、いかに言えば止めるのだろうか。強い不信感を抱かざるを得ない。

以上の観点から、次の事項について質問する。なお、同様の文言が並ぶ場合でも、各項目ごとに平易な文章で答弁されたい。

一、島々谷川（北沢、南沢、その他の支流も含める。以下同じ。）における美しい景観と多様な溪流生態系は、自然科学的見地及び文化的見地から非常に価値が高く、国民の財産としてありのままに保全すべきものであると考えるが、どうか。

二、一九九九年の大雨の際の土砂の影響を見ると、島々谷川第三号砂防ダムより下流において最も被害が出

ていた。したがって、島々谷川第六号砂防ダムを建設するよりも、下流にある既設砂防ダムについて、定期的な浚<sup>しゅんせつ</sup>濬やオープン型（スリット型）への改修などによつて、土砂調節量を増やすことを優先すべきであると考えるが、どうか。

三、島々谷川第一号砂防ダムについて、一九九九年の大雨の際、同砂防ダムによつて河床が上がつたため、土石流が道路にあふれやすくなり、道路を経て直下の人家に押し寄せる危険性があつたと聞く。したがつて、早急に同砂防ダムをオープン型（スリット型）へ改修し、河床を下げる必要があると考えるが、どうか。

四、一九九九年の大雨の際に破損した旧営林所作業小屋近辺の川原に、建設廃土が盛られている。また、二股トンネルの出入口近辺の川原でも、建設廃土が盛られている。この他、ワサビ沢トンネルの建設廃土も、近辺の川原に盛られている。しかし、川原はそもそも土砂調節機能を果たしているのである。したがつて、このように建設廃土を川原に置くことは、河川本来の土砂調節機能を低下させ、砂防事業と矛盾する行為になると考えるが、どうか。

五、現地を視察したところ、次の状況を目撃した。島々谷川第四号砂防ダムは満砂状態にあり、島々谷川第

五号砂防ダムの建設廃土が流れ込んでいた。また、島々谷川第五号砂防ダムも満砂状態にあり、島々谷川第六号砂防ダムの建設廃土が流れ込んでいた。このような状況について、政府の認識を示されたい。

六、政府は、環境調査及び土砂流出調査の結果を早急に公表した上で、住民やNGOなどを交えて、島々谷における砂防事業の改善策を検討すべきであると考えているが、どうか。

右質問する。

